事例No.	680
公表年度	H29
団体の属性	都道府県
団体名	東京都

事例区分	公会計

タグ	・セグメント分析

事例種類	セグメント分析

事例内容・タイトル

事業別財務諸表を活用した施設分析

出典

地方公会計の活用の促進に関する研究会

○ 事例名等

事例名	事業別財務諸表を活用した施設分析（障害者スポーツセンター）
団体名	東京都

1．取組の背景、検討を開始した契機・導入過程

(1)取組の背景

障害者スポーツセンターは、障害者のスポーツ・レクリエーション活動の振興と社会参加の促進を図るために設置された施設であり、年間約38万人（平成27年度）の方に利用されている。

開設当初と比べ、利用者ニーズが多様化しており、施設の老朽化も進んでいる。

(2)検討を開始した契機・導入過程

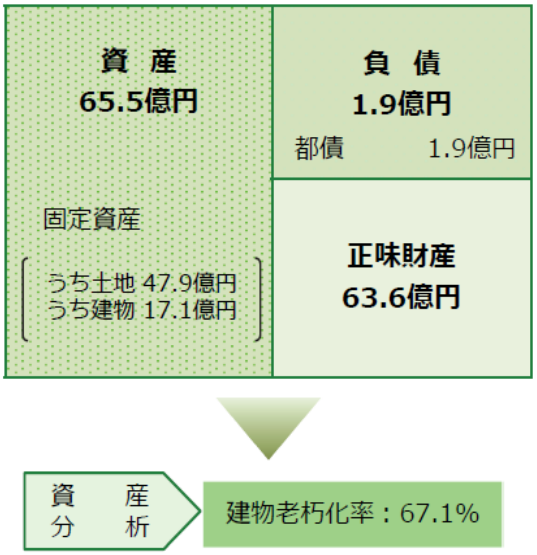
都は、事業の成果や決算状況を厳しく検証するのみならず、関係部局と連携した専門的視点からのチェックや、新たな公会計手法（複式簿記・発生主義の導入）の活用などを通じ、予算編成の過程で多面的な検証を行う取組として「事業評価」を実施している。

本事例も、事業実施に伴う成果や決算状況の検証を徹底し、必要性や有益性のほか、執行体制や将来への影響などにも十分に留意した上で、今後の対応を評価するため、事業評価の一つとして平成28年度に実施したものである。

本事例では、事業別財務諸表を活用して、施設分析を実施している。

▶ 平成27年度財務諸表

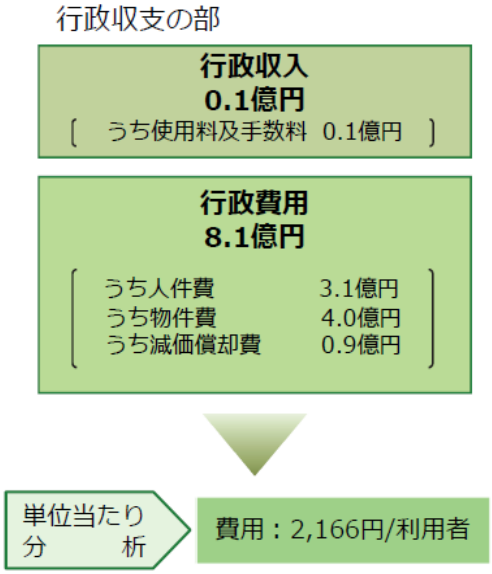
○ 貸借対照表



・建物老朽化率は、都の建物平均（47.8%）を上回っている。

・開設当初と比べて利用者ニーズが多様化しており、それらへ対応するためにも、引き続き、計画通り改修を進めていくことが求められ

○ 行政コスト計算書



・改修工事に係る行政費用の増などにより、利用者１人当たりのコストは平成26年度に比べ40円の増となった。

・今後も、利用者へのサービス向上とともに、効率的な運営が求められる。

2. 効果

コスト面への影響も注視しながら、改修工事を着実に進めることで、施設の老朽化に対応することが可能となる。

3. 他の自治体の参考となる点、今後の課題等

(1)他の自治体の参考となると考えられる点

他の自治体においても、事業実施に伴う成果や決算状況の検証を通じて今後の対応を評価していく際に、事業別財務諸表を活用して財務分析を行うという点が参考となると考えられる。

(2)今後の課題等

・改修に当たっては、障害者スポーツの競技力向上に向けて機能を充実させるなど、多様化するニーズに対応していく必要がある。

・事業別財務諸表を活用した分析等、新たな公会計手法を活用した取組を今後も推進していく必要がある。